



## シリーズ！ 活躍する2017年度国際活動奨励賞受賞者 その5

つだ けんご  
津田 健吾

日本放送協会 技術局計画部  
tsuda.k-ey@nhk.or.jp  
<https://www.nhk.or.jp/>



放送及び放送補助業務で使用する周波数に関わるWRC議題において、他業務との周波数共用・両立性検討を技術的観点から主導し、地上デジタル放送導入方法に関するITUハンドブックの編集をはじめ放送及び放送補助業務の適切な保護と周波数の有効活用に大きく寄与した。

### 放送技術の発展に向けて

この度は、日本ITU協会賞国際活動奨励賞という名誉ある賞を頂き、まことに光栄に存じます。日本ITU協会の皆様、関係者の皆様に御礼申し上げます。また、受賞の対象となったITU-Rにおける活動において、ご支援いただいた皆様に御礼申し上げます。

私は現在の所属部署への異動後、2014年秋のITU-R SG6 ブロック会合からITU-Rの活動に携わるようになりました。それまでは、主に国内の地デジ移行業務に従事しておりましたので、ITU-Rでの活動が、私自身にとって初めての国際対応業務となりました。当初は、慣れない国際対応業務ということに加え、ITU-Rの“お作法”が分からず右往左往しましたが、国内の経験者の方々はもとより、現地においては他国の方からもご助言をいただきながら、毎回対処して参りました。

これまでの約4年間は、放送に関する様々なトピックのうち、主にスポーツやコンサートの屋外中継におけるENG (Electronic news gathering) やTVOB (Television outside broadcast) 等の放送補助業務と呼ばれる分野での日本の取組みがITU-Rの文書に反映されるよう取り組んできました。具体的には、地上放送配信を所掌するWP6Aにおいて、レポートBT.2069に国内の周波数移行の取組み状況が、レポートBT.2344に8K番組素材伝送の実現に向けた取組み状況が反映されました。その他、固定業務を所掌するWP5C

においても、勧告F.1777やレポートF.2323にミリ波を使った放送補助業務の技術特性等が反映されるよう取り組み、2017年11月のSG5会合にて勧告F.1777の改定案が採択、レポートF.2323の改定案が承認されました。

また、日本は地上デジタル放送への移行を完了していませんが、途上国などでは移行途中、もしくは移行が始まっていない国もあります。そのような国々を対象に、SG6では2016年に地上デジタル放送導入方法に関するハンドブックを作成しました。作業はWP6Aが中心となり、会合期間中にはDG (Drafting Group) を設置したほか、会合の合間の期間にはCG (Correspondence Group) としてメールやウェブ会議を活用しながら文案の作成を進めました。私自身もDGやCGに参加し、一部の文案作成を担当しましたが、各地域の情報を反映するため、様々な方に情報提供をお願いし、ご協力いただけたことは良い経験となりました。

これまでのITU-Rでの活動において、他国の方にご協力をいただいた機会は少なくありません。国により考え方が異なることはありますが、これまで日本代表団として参加されてきた諸先輩方のご尽力による日本への信頼により、ご協力をいただけた部分も多いのではないかと思います。微力ではありますが、ITU-Rでの活動が、放送技術の発展はもとより、日本のプレゼンス向上にもつながれば幸いです。